

マーケット概況（2023年5月）

5月の債券相場は、前月末に植田日銀新総裁が現行金融政策の継続を示唆したことで、債券先物6月限が前週末比23銭高の148円83銭で寄り付くなど、買われて始まった。その後は9日の10年債入札が低調な結果となるなど重い値動きが続いたが、11日の30年債入札を順調に通過したことで、12日には債券先物は高値となる149円21銭まで上昇した。その後、米国の債務上限問題への警戒感から債券先物は反落したが、17日の20年債入札が好調な結果となると持ち直すとともに、20年184回債は3月14日以来の水準となる0.950%、10年370回債は4月3日以来となる0.355%まで利回りを低下させた。しかし、25日の40年債入札の結果は無難となったもののセカンダリー市場で伸び悩み、YCC修正観測の浮上も加わったことで急速に売られる展開となった。債券先物は148円07銭まで下落し、26日に40年16回債の利回りは1.500%、10年370回債は0.455%まで上昇した。月末にかけて米国の債務上限問題が沈静化したことなどを背景に30日に日経平均株価が終値としては1990年7月26日以来となる3万1,328円16銭の高値を付けたが、債券相場は年限長期化の買いから超長期ゾーンを中心に下げ幅を縮小し、今月の取引を終了した。

<短国市場>

3M金利は、月半ばまでは投資家需要を背景に概ね-0.16%~-0.17%台で推移した。19日入札の3M1158回債は最高落札利回りが-0.1523%となったが、翌週に足元金利が-0.20%台まで低下した背景も伴い、セカンダリー市場では-0.190%まで低下した。償還日が海外休場となる26日入札の3M1159回債は-0.16%台での落札となったが、月末にかけて投資家の買いが入り-0.181%で取引を終えた。6M1155回債入札は、投資家の玉確保姿勢が先行し最高落札利回り-0.1526%(前回債-0.1454%)と好調な結果となり、セカンダリー市場では-0.175%まで低下した。月前半は-0.16%台で推移していた1Y金利は、1Y1157回債入札では最高落札利回りが-0.12%台と低調だったが、投資家需要が根強く-0.157%で取引を終えた。

<一般債市場>

米国の利上げ停止観測に加え、日銀の政策修正時期の後ずれの思惑が強まるなか、定例地方債は10年債・5年債のいずれも前月対比でスプレッドが1bpタイト化し、10年債は国債対比+29.0bp、5年債は同+14.0bpで条件決定し、また、新発政保債入札でもタイト化したものの旺盛な投資家需要から順調に消化された。既発債を含め、公共債セクター、社債セクターのいずれも良好な需給環境が続き、スプレッドのタイト化が過熱気味に進んだ。18日におこなわれた社債オペでは応札額が減少したことで落札金利が3ヵ月ぶりに前回比で下回った。社債発行額は、起債自体は前年同月並みではあるものの、前月からは発行銘柄数・発行額のいずれも大きく減少し、6,027億円となった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#370	0.385(1日)	0.355(17日)	0.455(26日)	0.430(31日)
#369	0.355(1日)	0.335(17日)	0.430(26日)	0.395(31日)
#359	0.200(1日)	0.170(17日)	0.265(26日)	0.225(31日)
#157-#158(5Y)	0.100(1日)	0.080(31日)	0.130(9日)	0.080(31日)
#184(20Y)	0.995(1日)	0.950(17日)	1.075(26日)	1.015(31日)
#1149-#1155 TDB(6M)	-0.150(9日)	-0.175(12日)	-0.150(9日)	-0.175(18日)
#1153-#1159 TDB(3M)	-0.175(2日)	-0.215(12日)	-0.160(19日)	-0.181(30日)